



## 阿弥陀如来

阿弥陀は無量光、無量寿と訳します。

この如来は大きく分けて三つのお姿があります。説法・禅定・来迎です。その中有名なのは来迎の阿弥陀で、親指と人指し指で輪を作り、右手を胸の高さに、左手を下に垂らしています。信心するものの臨終に際して、西方極楽浄土より、お迎えに来て下さるお姿です。これに観音・勢至がついて阿弥陀三尊としておまつりされることもあります。お経によりますと、その信心の度合い、生活の内容により、非常に充実している人は大勢の菩薩達を引き連れてお迎えに来て下さり、速やかに極楽往生できるが、信心の薄いものは、魂をのせる蓮台だけが飛んできて、往生にも時間がかかると書かれています。

密教では、禅定の阿弥陀如来を五智如来に加えて、西の方角にまつり、妙観察智を司る仏といたします。妙観察智とは、さまざまな世の中の事象をよく観て、その正しい姿を思惟する深い智慧のことです。

弘法大師は「無辺の生死いかんがよく断つ、ただ禅那と正思惟とのみあつてす」と申されました。苦しみ多く、幸少なきこの世において、まずは自分の足もとを見つめそして確認し、今有る自分を振り返ってみましょう。心静かに自心の奥に目を向け、深く集中して、自分には何ができ、又何をすべきなのかを考えてみましょう。

自分を知ることが、今、一番大切ではないでしょうか。